

神奈川工科大学 福祉機器・用具見学会－視覚障害者の住環境・生活上の配慮を考える－(2011年4月16日)

4月16日、福祉住環境コーディネーター(FJC)協会主催(「たまりば」企画)の標記見学会が開催されました。この見学会は昨年実施した「ライフモデルルーム」見学会に引き続き、神奈川工科大学 創造工学部 ロボット・メカトロニクス学科 人間福祉・健康科学コース 小川喜道教授にご協力頂いたものです。

今回の見学会は視覚障害者が対象ということでのどの程度の人数が集まるか不安でしたが、FJC協会申し込みの出席者は8名(欠席1名)と多くの方にご参加頂きました。そのほか、東海大学講師 山崎氏、FJC協会理事 鶴田氏、「たまりば」アテンド4名(天沼さん、浅川さん、永島さん、多賀)が参加しました。

見学会は小川教授の軽妙で優しさあふれる講義に始まり、参加者の実際の体験を交えながら楽しく進められました。

また、「たまりば」のある町田に居住される全盲の川田隆一氏(神奈川県障害者自立生活支援センター ピアサポーター)にもご参加頂き、視覚障害者の暮らしについて分かりやすくお話し頂きました。視覚障害者の住環境は物理的というより人間関係が自立の度合いに関わるとのことでした。

協会出席者の事後のアンケート結果を見ますと、皆さん、見学内容に大変満足されており、“視覚障害者の住環境・生活上の配慮”について理解が深められたものと思います。小川先生、川田さん、そして支援して下さいました学生の皆さん有り難うございました。

以下、講義を含む見学会の内容を箇条書きで簡単に記します。

1. 視覚障害者の状況

- ・厚生労働省の実態調査によると、視覚障害者は約31万人おり、60才以上が71%と高齢者が多く、持ち家に住み、家族と同居の方が多という特徴がある。
- ・視覚障害者で点字を読める人、パソコンのできる人は少なくコミュニケーションの手段が必要となっている。

2. 視覚障害者の等級と歩行の困難さの関係を体験

- ・視覚障害者の傷害等級は“視力”と“視野”で判断し、両方を合算して等級を決める。
- ・出席者が4,3,2枚と枚数を変えた磨りガラスを目に当てて視力を落とし歩行を体験した(写真)。

磨りガラス1枚	視力0.6相当	}	→ 傷害等級 5～6 級	不自由なく歩ける
2枚	0.3相当			
3枚	0.04以下相当	→ 2級		足元が不安
4枚	0.01以下相当	→ 1級		移動が困難
- ・視野については視野計で8方向を計測し合算する。殆ど見えない人で2級となる。

3. オセロを体験し視覚障害者への配慮を学ぶ

- ・アイマスク(全盲状態)をして視覚障害者用のオセロを体験した(写真)。
その体験者から次のような感想が出された。
両手が必要、記憶が必要、斜めがわかりにくい、一つに気をとられる、全体が捉えにく

い、枠に疑い、合っているか自信がない、位置・角度が捉えにくい、確認に時間がかかる、など…。全体的には不安があり、記憶が必要ということになる。

- ・補助具はすぐ使えるとは限らず、その有効性は試用が必要である。視覚障害になり始めた人と年数を経過した人では認識が違うので経験の要素をみないといけない。

4. 支援における基礎的情報

- ・年齢、健康状態、視覚、傷害の受け入れ、家族の状況、趣味、点字能力、歩行能力、…

5. 住環境のあり方

- ・動線の安全確保、手がかりの設定(車椅子とは違い手がかりとしての上がり框はあった方がよい)、安全な作業空間(ドア位置と家具の配置などに注意)、…

6. 視覚障害者用補助具を触る

- ①触る、②拡大する、③音声化する 便利な補助具を触って試用体験した(写真)。

7. 川田さんから「視覚障害者の暮らし～我が家の工夫～」をお話し頂く

- ・町田のマンションの3階に一人で暮らしている。普段階段を使っているが、階段は規則正しいので苦手ではない。
- ・歩行は記憶を手がかりとすることが多く、家具の配置を変えるとぶつかったりするので注意が必要。
- ・広いスペースは苦手で、例えば車椅子用のトイレより普通のトイレの方がよい。
- ・安全には気を使っており、ガス漏れ警報機、火災報知器は音声が出るものを設置している。
- ・衣類では靴下の区別がつかない。洗濯ネットでバラバラにならないようにしている。衣類の色は点字タグを付けて区別し組み合わせて着ている。
- ・住環境は物理的というより人間関係が自立の度合いに関わる。

8. ディスカッションでは参加者の自己紹介があり質問、意見などが出された

今回の参加者は、普段、視覚障害の方に接している人も多く(視覚障害者に給湯機を設置した設備業の方、老人ホームで視覚障害者を担当、盲学校、…)、それぞれ目的を持って参加され、次のようなコメントがあった。

- ・トイレといっても傷害の違いにより使い勝手が異なるのでひとくくりにできないことが分かった。
- ・給湯機は、電源が切れると初期設定となってしまう。そのコントローラは液晶タッチパネル式で視覚障害者には不適切。湯温は音声で言うが湯量がわからないなどの課題がある。
- ・視覚障害者の住環境に人間関係が影響してくることを認識した。

9. まとめ

視覚障害者だけでなくどの傷害者に対しても人間関係、コミュニケーションが重要であるということがまとめとなった。

最後に、傷害程度区分の認定調査に係る、“暮らし”を反映させた「視覚障害者に対する判断基準のポイント」が紹介され、参考として下さいとのことでした。

以上

(多賀 章)

神奈川県立小川研究室

見学会は小川研究室で開催された。



(磨りガラス 4 枚重ね) = (視力 0.01 以下) = (障害者等級 1 級) を目に当て視力を落とした状態で歩行してみる。



重ねた磨りガラスで視力を落とした状態を体験する。



磨りガラス状態で視力計測。



障害者等級1級だと目標の“骸骨クン”までなかなか到達しない。



視野計
眼球を動かさないので見える範囲を計る。



視覚障害者用のオセロ盤

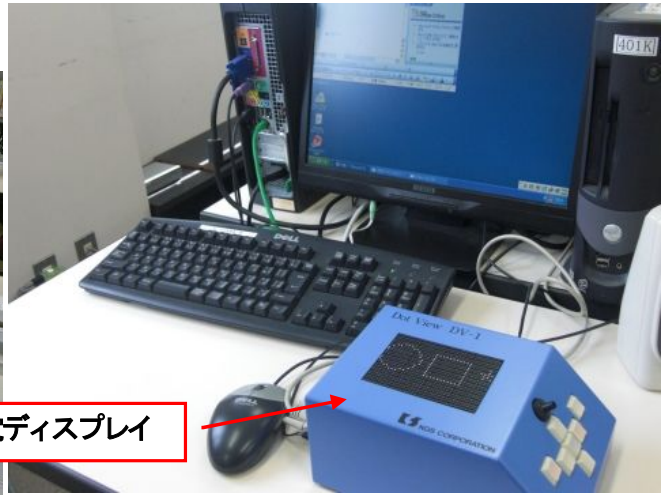
盤のマス目の仕切りが凸状で、コマの黒面にはうず巻き状の凸線を施し、コマの中には磁石が入っている。

視覚障害者用のオセロ盤 (改良型)

マス目内の盤を回転させると黒面、白面のコマが出る。初心者にとって必ずしも使いやすいとは限らない。



点訳ソフト
 入力を音声出力で確認ができる。右は点字プリンター。



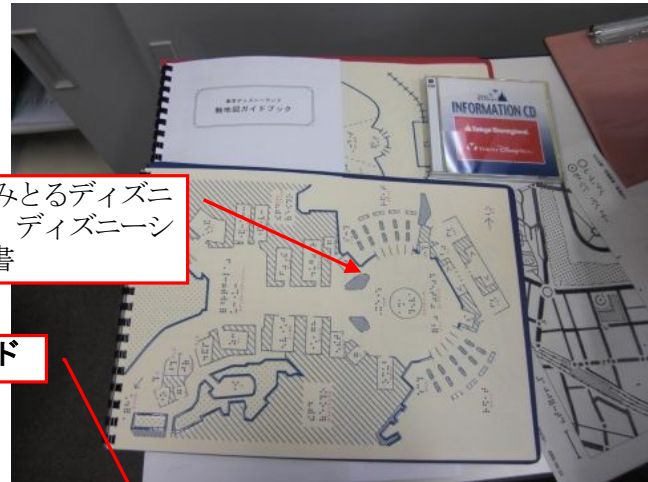
触覚ディスプレイ

ユニバーサルデザインの例
 ラップには、「W」をデザインしたエンボス加工（浮き出し文字）がついている。ホイルこはない。

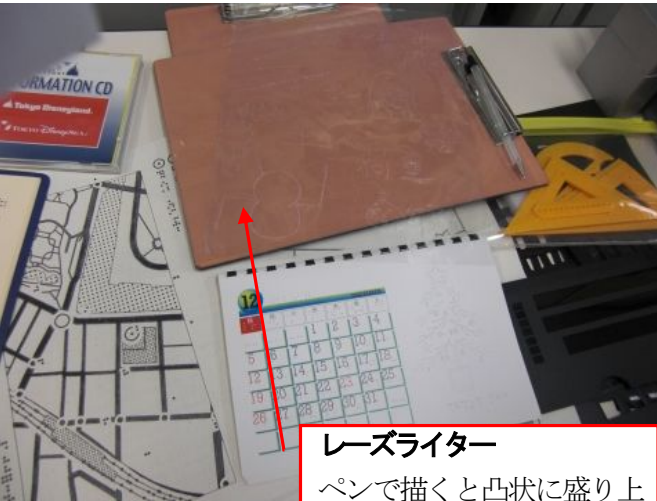


触読式腕時計
 蓋を開き触って時間をを知る。

触って読みとるディズニーランド、ディズニーシーの案内書

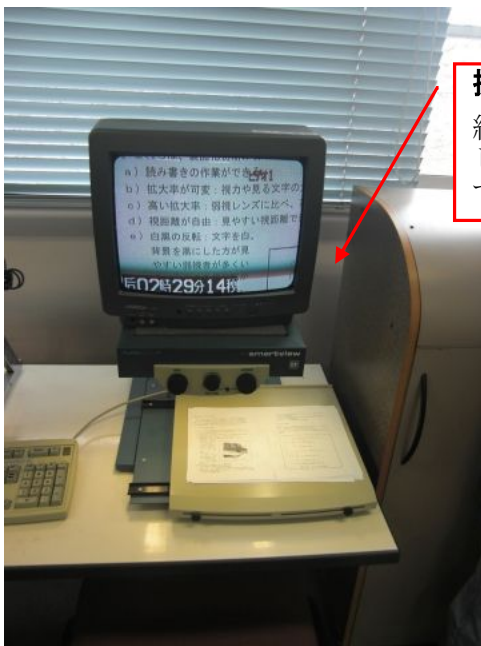


レター用すみ字ガイド



レーザーライター
 ペンで描くと凸状に盛り上がり線を指でなぞって確認できる。





拡大読書器
紙面の文字を拡大して画面に映し出します。



視覚障害者用体温計
計測が終わると音声で体温を伝える。
視覚障害者用電卓
数字や各キー機能、計算結果を音声で知らせる。



デイジー(DAISY)
CD-ROM による録音図書。視覚障害者で点字が読めない方、パソコンを使用しない方にとっては、音声での情報提供が重要。



川田隆一さん著「怒りの川田さん」
「差別される側」からの悲鳴に近い意見の数々が記されている。
第一章 嘘のような本当の話
第二章 街で見つけたバリアフリー詐欺
第三章 地獄行きグランプリ！ 日本代表候補者リスト
第四章 ブラボー！！ 泣く子と障害者には勝てませんから
：